
Voice

鴉夜

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Voice

【Nコード】

N1543C

【作者名】

鴉夜

【あらすじ】

名前を呼ぶ少女と、名前を呼ばれる少年の話

僕の世界に、君はいない。

『Voice』

「暗闇の外から声が聞こえた。誰かが僕を呼んでる声が。」

「聞き慣れた声。ああ、あれは君の声だ。」

「嬉しかった。君がまだ、僕の名を呼んでくれることが。だから僕は、その声に応えなかった。君をとて、大切に思うから。」

「もう何度目になるのだろうか。僕の前を君が通り過ぎた。」

君は気付かない。

そんなことは解っている。

だって——……。

サアア

冷たく凍えるような風が吹いて、君が僕を呼ぶ声をかき消した。それなのに、君が泣き崩れる様は、僕の前から拭い去ってはくれない。

「泣きながら僕のことを呼ぶ声。たまらずに、耳を塞いだ。」

「
お願いだから、泣かないで。」

僕の為に泣いてくれるのは嬉しい。けれど、このままだと君が壊れてしまう。

だから、今は笑って。

そのためにはなら、僕のことなんか忘れてくれて構わないから。僕はもういるべき場所がを、世界を違えてしまったのだから。

「
ねえ、僕なんかのために泣かないで。自ら命を絶った愚か者のことなんか、忘れてよ。」

君がどんなに僕の名前を呼んでも、もう何も変わらないんだ。だって……だって僕はもう、死んでるんだよ——……。

雪が降っていた。影のない僕と、泣き崩れる君の心に。
今はただ、この雪がいつか溶けることを祈り、眠ろう——……。

【終】

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1543c/>

Voice

2010年10月10日12時03分発行